

科目名称：	工業簿記演習	
担当者名：	西田 敬志	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
日本はものづくりの国と言われますが、製造業の国内総生産に占める割合はサービス業に次ぐ第2位であり、日本経済を支える大きな産業となっています。この分野において、適正な利益を計算するためには、正確な原価計算が求められています。しかしながら、製造業では、仕入れた材料をそのまま売るのではなく、切る・組み立てるなどの加工をするため、正確な原価計算をすることが難しくなっています。そこで、この授業では正確な原価計算をするために、工業簿記の知識を学び、社会で活かすことのできる知識を得ることを目的とします。		
授業の達成目標・到達目標		
日本商工会議所簿記検定試験2級、工業簿記分野における知識の修得を目標とします。		

ビジネス実務学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、様々な価値観を持つ他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP (2)	地域社会を理解し、様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化するビジネス社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP (3)	ビジネス実務の分野において、基礎知識を身につけるとともに、専門的な知識や技能を修得し、各種資格取得を目指して専門性を磨き、これらを柔軟に活用していくことができる。		○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
ビジネスDP (1)					0
ビジネスDP (2)					0
ビジネスDP (3)	60	40			100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》税理士 * 税理士事務所	《経験年数1》 9年8か月 * 20年3か月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
日商簿記2級、工業簿記における知識を合格レベルに達すること	テキスト附属の問題をすべて正確に解答できる	テキスト附属の問題の応用問題をおおむね正確に解答できる	テキスト附属の問題の基礎問題をおおむね正確に解答できる	テキスト附属の問題を、テキストを見ながら解ける

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 工業簿記とは	製造業について調べてみる	30分
第2回 工業簿記の基礎	授業で進んだ範囲（工業簿記の基礎）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第3回 材料費	授業で進んだ範囲（材料費）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第4回 労務費	授業で進んだ範囲（労務費）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第5回 経費	授業で進んだ範囲（経費）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第6回 個別原価計算 （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（個別原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第7回 個別原価計算 （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（個別原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第8回 部門別個別原価計算 （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（部門別個別原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第9回 総合原価計算① （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（総合原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第10回 総合原価計算② （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（総合原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第11回 総合原価計算③ （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（総合原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第12回 工業簿記における財務諸表・本社工場会計 （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（工業簿記における財務諸表・本社工場会計）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第13回 標準原価計算① （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（標準原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第14回 標準原価計算② （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（標準原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
第15回 直接原価計算 （授業内でディスカッションをしながら演習を進める）	授業で進んだ範囲（直接原価計算）のテキスト巻末の問題を解く	30分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント（ミニテスト）をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。 小テスト3回 40%		
課題に対してのフィードバック		
授業内プリントは評価して返却する		
教科書・参考書		
教科書：スッキリわかる日商簿記2級工業簿記第最新版（TAC出版） テキストの該当ページを開きながら説明を行う。		